

# 調 查 研 究 報 告

第 1 号

国 文 学 研 究 資 料 館

文 献 資 料 部

1980



## は　じ　め　に

国文学研究資料館における文献資料部の任務は、「国立大学共同利用機関組織運営規則」(昭和三年四月六日文部省令第一二号)に、「文献資料部においては、国文学に関する文献その他の資料の調査研究及び収集を行う(研究情報部及び史料館の所掌に属するものを除く)(第十一条)」と規定されている。当部では昭和四年五月当館が設置されて以来、右の規定に基づいて、国文学文献資料収集計画委員や同文献資料調査員の協力を得て、文献資料の調査研究及び収集事業を実施してきたが、当初は準備調査段階において収集された若干の資料を除きマイクロフィルム資料がほとんど皆無に近い状態から出発したため、まず文献資料調査員の調査報告に基づき、文献資料収集のための基礎資料を整備することが重要と考え、事業報告に代えて、「国文学文献資料所在調査目録」を昭和四年年度から昭和五年年度まで毎年部内業務用として刊行してきた。しかしながら、その後、館の整備に伴い、調査員等の調査報告に基づき、所蔵者の許可を得て収集し得たマイクロフィルム資料はすべて、昭和三年以来、整理閲覧部の事業として浩瀚な「国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録」に収録され、逐次刊行を見ることがとなった。したがって当初われわれが意図した「国文学文献資料所在調査目録」の当部事業報告としての意義は著しく稀薄化した。のみならず、館の整備に伴い当部の事業も近年著しく多様化し、文献資料部の任務を遂行するための文献資料の調査研究も専門的に深化することが要請せられている。われわれもそのために努力を続けてきたつもりであるが、これらの調査研究の結果を報告する機会がなかった。また事業の遂行のためには、調査研究及び収集を一貫する当部の事業を記録に留め、絶えざる調査・研究と情報の蓄積の上に、当部の事業を効率的に進展せしめていくことが何よりも必要である。

当部においては、この点に鑑み、その調査研究及び収集事業の全体をわれわれ自身明確に把握して将来の進展をはかると共に、事業報告の趣旨を生かすために、本年度から「文献資料部調査研究報告」を在来の「国文学文献資料所在調査目録」に代えて部内業務用として刊行し、関係当局ならびに関係者に報告することを決定した。

今回は最初の試みであって、われわれ一同の努力にもかかわらず不備な点も多いと思われるが、今後はいっそう整備を期し、学問的な調査研究に基づく当部の事業のいっそうの進展を図る決意である。

文献資料部長　大久保　正

# 目

# 次

はじめに	一
研究報告	三
中田剛直氏蔵本目録稿	三
畠山記念館蔵古筆切紹介	二二
表紙模様記述用語集成(二)	三一
既刊蔵書印譜索引稿(印文篇)	五二
日本漢文学関係資料の調査・収集について	一三五
一、調査・収集の範囲と実施上の留意点	一三七
二、近世漢文学の立場から	一四一
芸能関係資料の調査・収集について	一四一
——利用者の立場で——	一四一
研究余録	一四六
増上寺「文化財特別閲覧」記	一四六
——南北朝頃の私撰集断簡と広沢切——	一四六
海外の絵巻、奈良絵本(在外資料)について	一四八
調査報告	一四九
収集報告	一五六
委員会報告	一六〇
調査カードの改訂について	一六三
共同研究報告	一七二

調査研究報告 第一号

昭和五十五年三月三十一日 印刷  
発行

発行者 国文学研究資料館文献資料部

142 東京都品川区豊町一丁目一六―一〇

電話 (〇三) 七八五―七二三一

代表者 大久保 正

印刷所 勝美印刷株式会社